厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
（分担研究報告書）

全国がん登録と連携した臓器がん登録による大規模コホート研究の推進及び高質診療データベースの為のNCD長期予後入力システムの構築に関する研究

（研究分担者　今村将史・札幌医科大学消化器・総合、乳腺・内分泌外科・講師）

研究要旨
「がん登録を利用した医療情報の発信に関する研究」について、全国がん登録、臓器がん登録、NCDによる登録の現状を把握し、今後の展望に関して検討した。
　臓器がん登録は全体的にカバー率が低値であり、NCDに実装された乳がん、肝がん、膵がん登録の全てにおいて登録施設数や登録症例数の増加を認めた。今後は、全国がん登録、臓器がん登録、NCD登録の連携によるデータの質の向上が期待されるが、個人情報保護法によるシステム化の困難性が解決すべき課題と考えられた。

A．研究目的
　本邦の大規模ながん関連登録としては、法令による全国がん登録、各専門系学術団体による臓器がん登録、NCDによる手術症例登録が存在する。これらの現状を把握し、今後の展望に関して検討する。

B．研究方法
　①本研究班の分担研究者の専門領域を対象(15がん種)に、「カバー率」、「検討中の対策」、「NCDを利用した臓器がん登録の効果」を調査した。
　②平成28年度11月に、「がん」に関するガイドラインを公表している28学会・研究会を対象として、「診療ガイドライン関連」、「COI関連」、「がん登録関連」、「臨床研究・分析事業関連」、「情報倫理関連」、「財務関連」に関してアンケートを実施した。その中の「がん登録関連」の結果を中心に分析した。

C．研究結果
　①臓器がん登録は全体的にカバー率が低値であった（肺がん30％、大腸がん6-7％、腎がん20-30％、前立腺がん20%、婦人科がん60-70％、小児がん50-80%、皮膚がん20-40％、乳がん70％、食道がん40％、胃がん50％、肝がん40％、胆道がん15-20％、膵がん40％、神経内分泌腫瘍70％）。乳がん、肝がん、膵がんといった臓器がん登録はNCDに実装され、食道がん、胃がん、大腸がん、胆道がんに関してはNCDの実装を計画・検討中であった。またNCDを利用した効果として、乳がん、肝がん、膵がん登録の全てにおいて登録施設数や登録症例数の増加を認めた。
　②臓器がん登録を実施している学会・研究会は約70%であった。臓器がん登録を実施していない背景・理由としては資金不足や人材不足といった問題点が挙げられた。また、臓器がん登録内容の精度管理上の課題としては、多くの学会・研究会から、管理体制、資金不足、人材不足が挙げられた。

D．考察
　全国がん登録、臓器がん登録、NCD登録の連携により、より正確ながん罹患状況の把握が可能となり、国家的がん対策、地域医療計画、がん検診の計画と評価、がん罹患動向予測、国際比較へと応用しうる。また、国民・医学研究者・行政とのデータ共有により、生存分析や罹患情報を医学研究へ活用可能となり、国民が医師と治療方針を決定する上での重要な情報になると考えられる。

E．結論
　がん登録の現状と今後の展望としては、全国がん登録、臓器がん登録、NCD登録の連携によるデータの質の向上が期待され、それによって、より正確にがん罹患状況の把握が可能となり、国民の医療や医学研究への活用にも繋がるものと考えられた。
　また、個人情報保護法によるシステム化の困難性が解決すべき課題と考えられた。

G．研究発表
1.　論文発表：なし
2.　学会発表：なし

H．知的財産権の出願・登録状況
（予定を含む。）
1. 特許取得：なし
2. 実用新案登録：なし
3. その他：なし